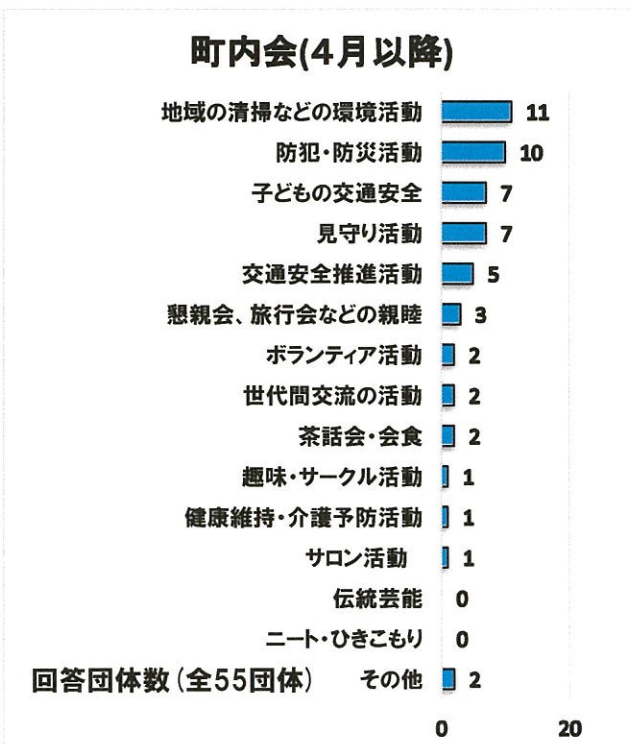
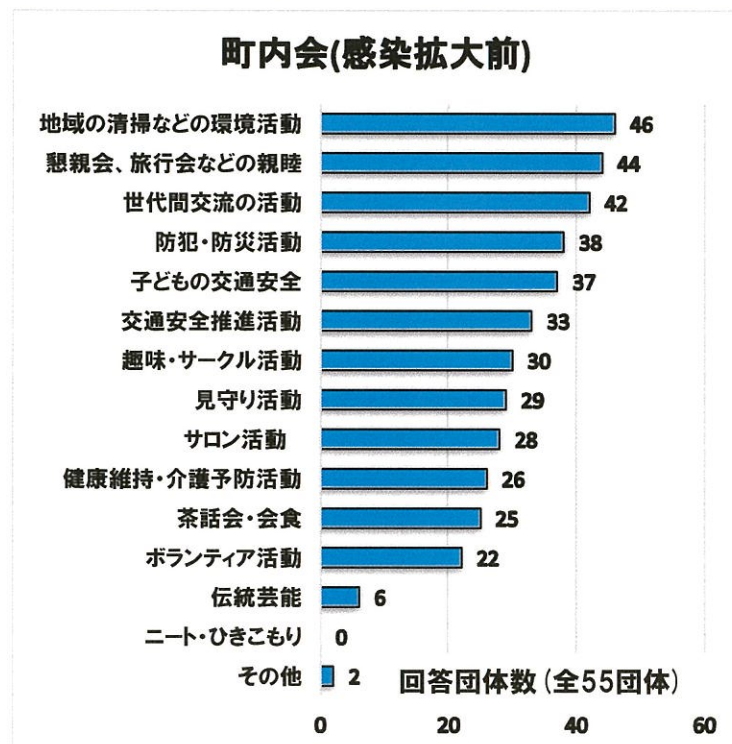


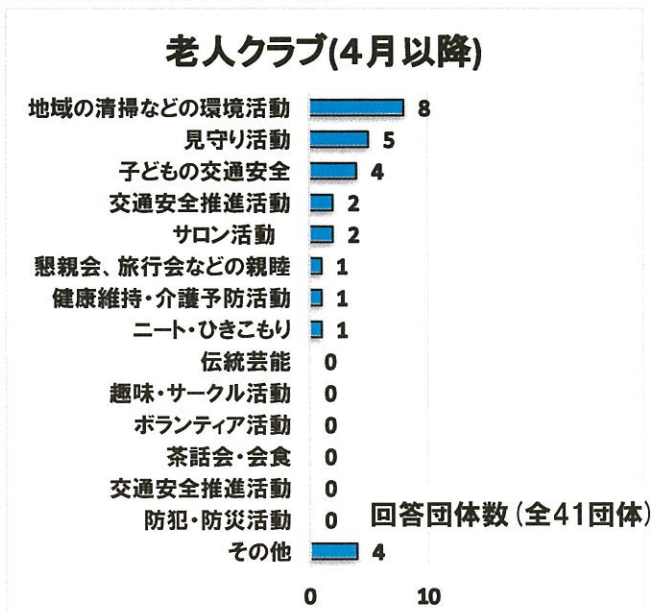
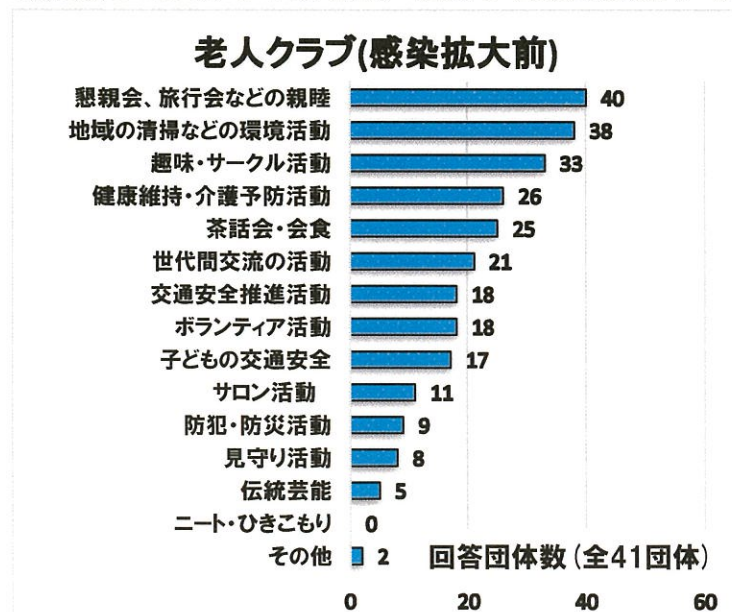
地域活動におけるアンケート調査の集計結果

設問1 これまでの地域活動について(感染拡大前と4月以降を比較)

町内会の活動については、感染拡大前と比べて、4月以降の活動は大幅に減少した結果となった。特に会員の親睦や世代間交流等の活動は著しく減少した。一方で、地域の環境活動や防犯、見守り活動等に関しては、一部継続している傾向がみられた。その他、「電話での体調確認」等と回答があった。

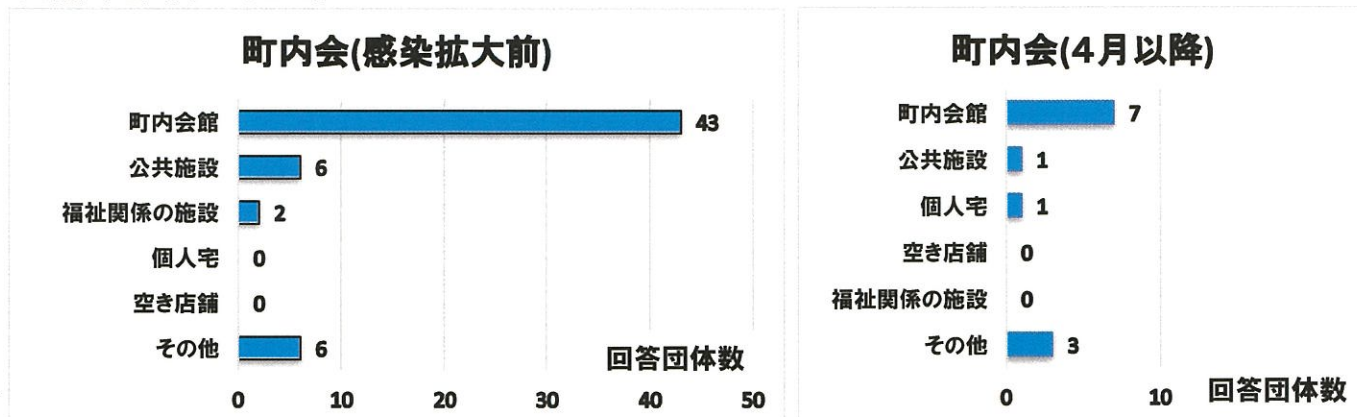


老人クラブの活動に関しては、町内会同様、4月以降の活動は大幅に減少した結果となった。特に、趣味・サークル活動に関して、4月以降実施している団体はなく、深刻な状況であった。一方で、見守り活動は比較的継続しており、その他では、「電話での安否確認」や「誕生日会」等と回答があった。

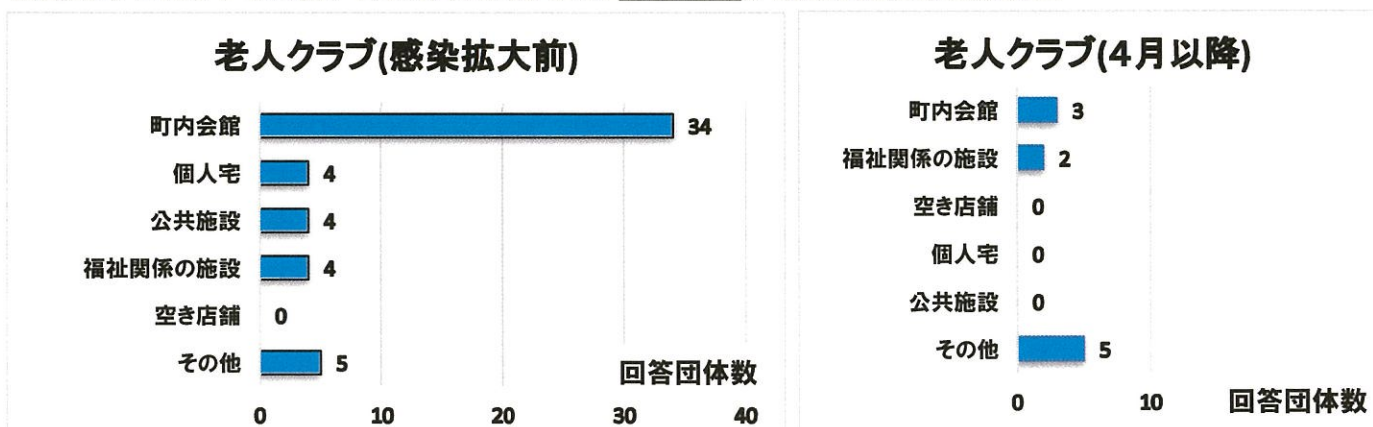


設問2 主な活動時の場所について(設問1で活動していたと回答した団体のみ)

主な活動拠点である町内会館が閉館していた影響により、会館利用数は約60%減少する結果となった。その他に関しては、4月以降、屋外活動を中心に「公園等での花壇活動」や「夜回りパトロール」、「公園」、「通学路」等と回答があった。



老人クラブの町内会館の利用数は拡大前と比べて、約90%減少。また、町内会と同様だが空き店舗等での活動はみられず、その他、4月以降に関しては、屋外活動が増加した結果となった。

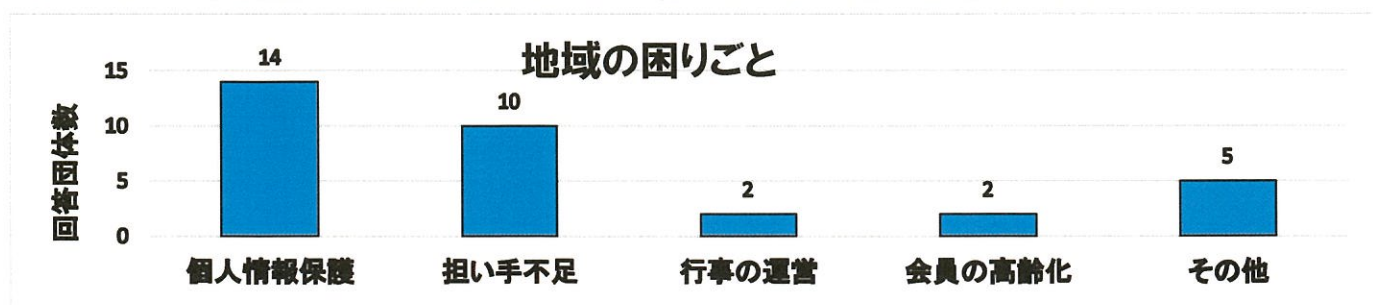


設問3 地域の困りごとについて

地域の困りごとについて、個人情報保護との回答が最も多く、その内訳は「新しく居住した人・独居高齢者の情報が把握しにくい」や「住所、電話番号の取り扱い」、「地域のトラブル時にすぐ情報が得られない」等と回答があった。

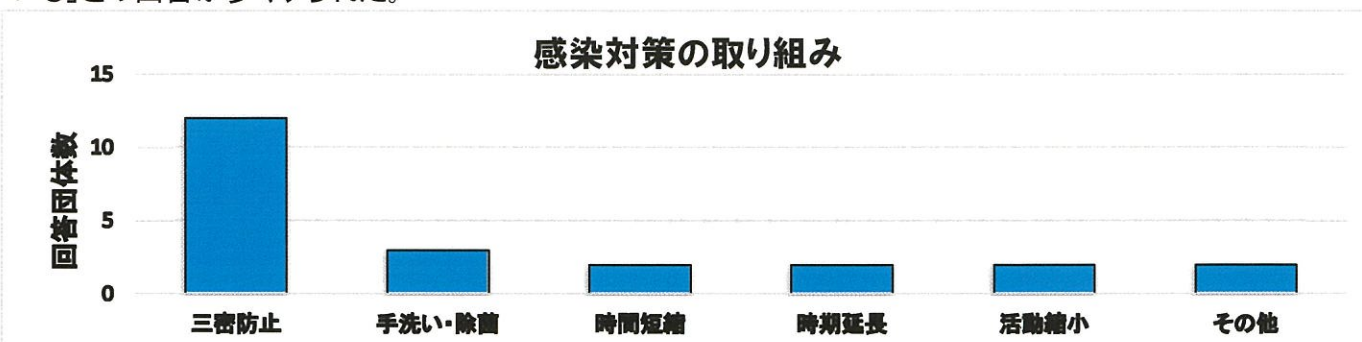
次いで、担い手不足が多く「若年層の町内活動に関する無関心さ」や「参加者の固定」、「会員が少なく、ボランティア活動への協力は難しい」等と回答があった。行事の運営では「交通手段がない」こと。会員の高齢化では「活動中の事故」や「できる行事が限定される」等の回答がみられた。

その他の意見として、「災害避難時における要支援者の把握が出来ていない」ことや「支援は必要だが、かかりつけの医療機関がどこかわからない」、「騒音に対する対応」等と回答があった。



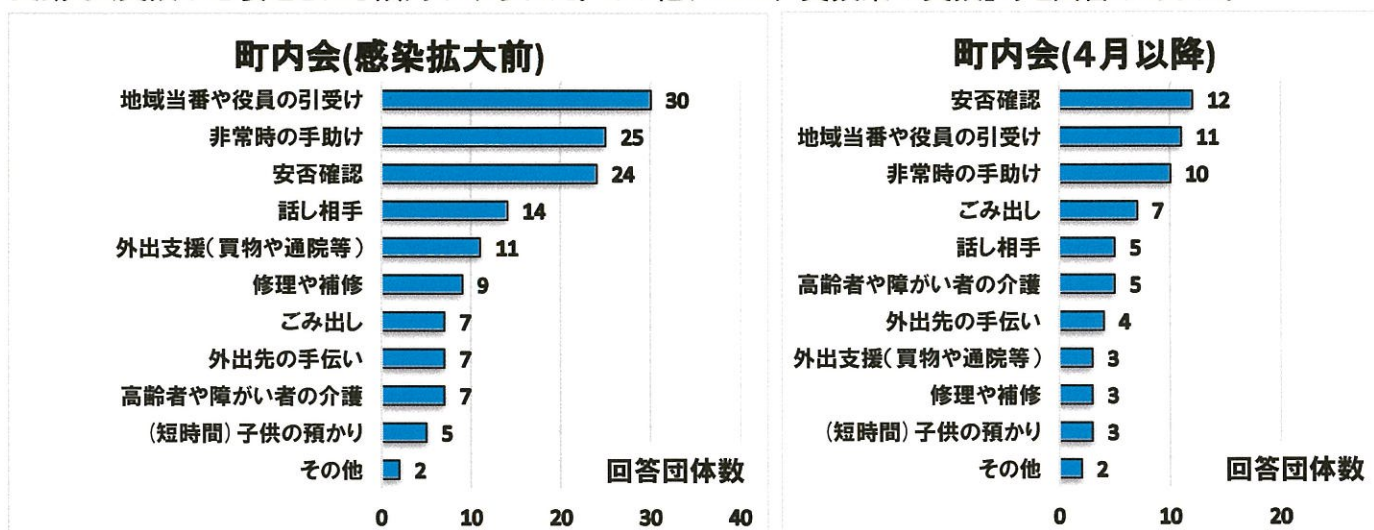
設問4 活動時の感染対策について

コロナウイルスの感染防止対策に関して三密防止が最も多い結果となった。次いで、手洗い・除菌、活動時間の短縮や開催時期の延長が挙げられた。活動範囲の縮小では、ほとんどの団体が「役員会のみ行っている」との回答が多くみられた。

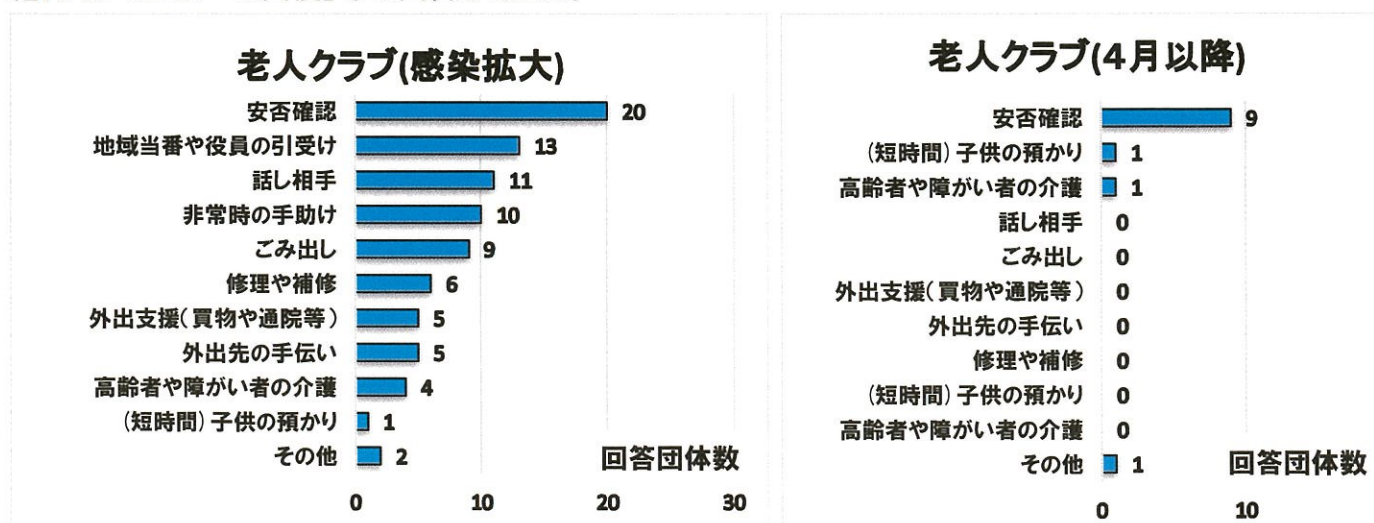


設問5 地域で必要とされている支援について(感染拡大前と4月以降を比較)

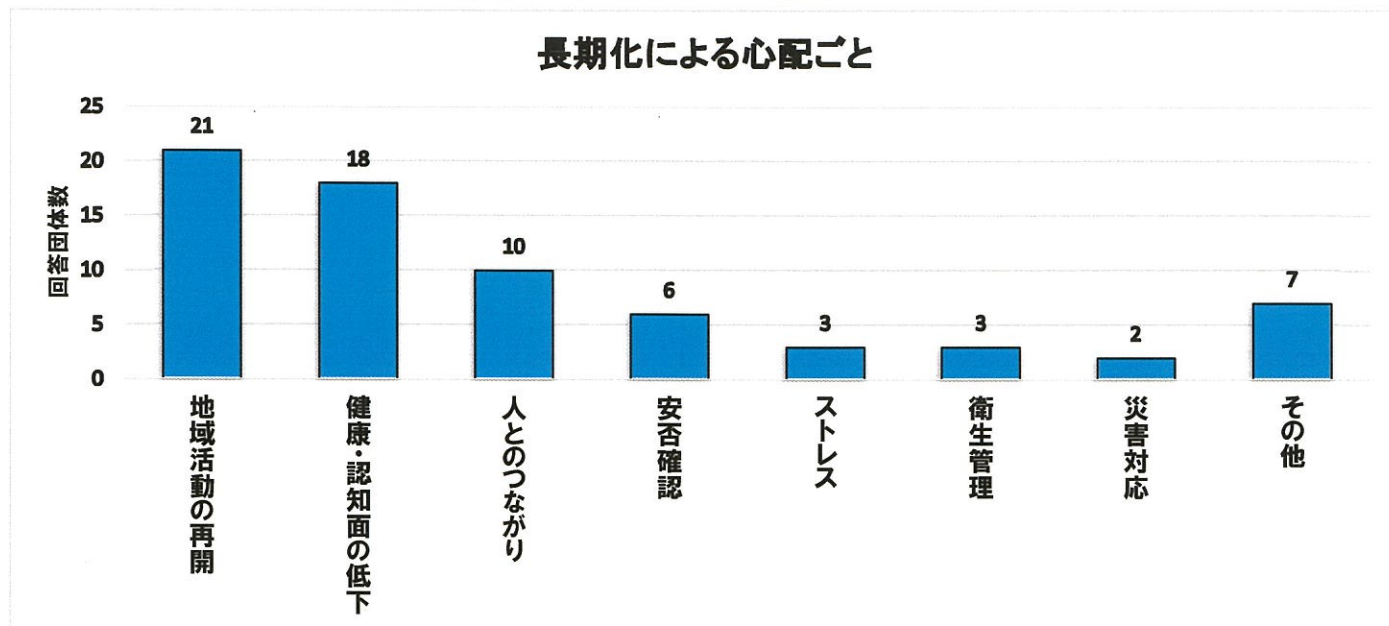
町内会では、地域で必要とされる支援について、感染拡大前は役員等の引受けが最も多かったが、4月以降は安否確認が最も多い結果となった。4月以降は全体的に減少がみられたものの、特にごみ出しに関しては変動なく支援が必要とされる傾向がみられた。その他、「コロナ支援策の支援」等と回答があった。



老人クラブに関しては、安否確認が感染拡大前後ともに、最も多い結果となった。その他では、「つながりが途絶えていることへの回復」等の回答があった。



設問6 外出自粛等の長期化による心配ごとについて



地域活動の再開ができるかについての心配ごとが最も多く、具体的には「活動自粛による会員離れ」や「地域活動の停滞から、今後の見通しが立たない」、「心身機能の低下から三密に留意しても不安」、「再開の目安や進め方、活動内容そのものがわからない」等と回答があった。

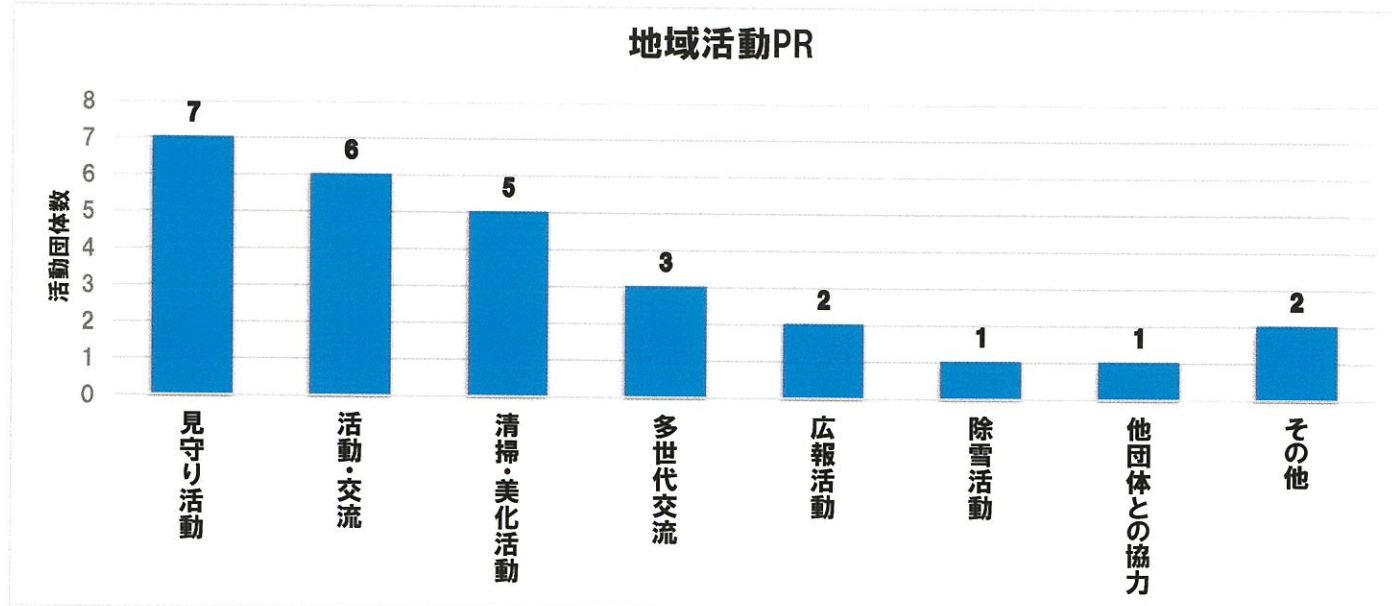
次いで、健康・認知面の低下が多く、「自宅で過ごす時間が増えることによる運動不足」や「外出自粛による閉じこもり」、「サロン活動が停滞し、以前の生活習慣に戻せるか不安」等と回答があった。

人とのつながりでは行事の相次ぐ中止でにより交流機会が全くない一方で、「手紙や電話のやりとりをしながら励まし合い、つながりを切らなさいようにしている」等の回答があった。安否確認では「住民の姿が見えないことにより把握ができない」こと。活動や外出自粛等によるストレス等の回答がみられた。

その他、コロナウイルスの影響による「会員の減少」や「会費回収の困難さ」等が挙げられ、地域の組織活動継続についても懸念される結果となった。



設問7 地域活動におけるPRについて



地域活動PRにおいては見守り活動が最も多い結果となった。具体的には「夜間の見回り活動」や「日中のごみ拾いと兼ねての安全パトロール」、「世代を問わない見守り活動」等と回答あった。

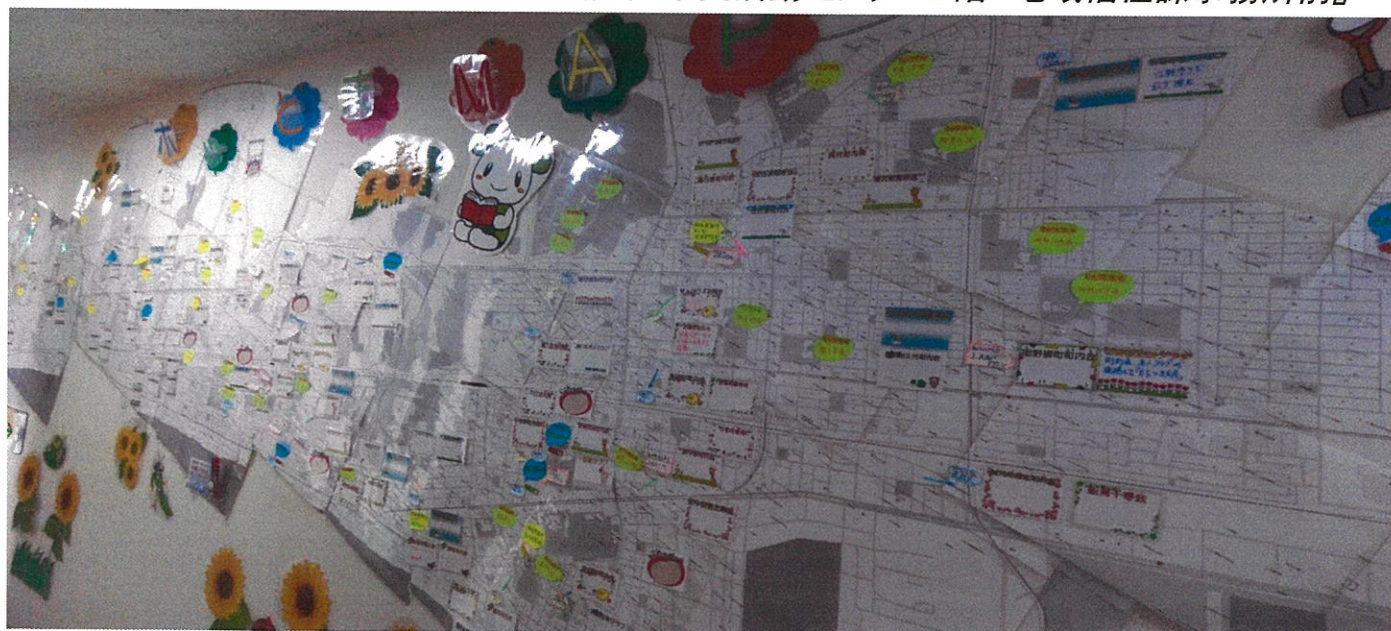
次いで多かった活動・交流では、「川柳づくりボケ防止」や「給付金詐欺の注意喚起」、「ちょっとした散歩」「リフレッシュ体操や軽スポーツの実施」、「会独自での機関誌の発行」、「町内会・老人クラブ・民生委員が高齢者支援委員会を構成し活動」等の回答がみられた。

美化活動では「公園清掃・花壇手入れ(毎週当番制)」、多世代交流では「町内会と老人クラブ共同での餅つき大会(大人から子どもまで200人)」や「(地区の垣根をこえた)子ども夏祭り」等について。広報活動では「地域の身近なニュース発行」や「お便りでの励まし合い活動」等の意見があり、その他、別の団体と連携した除雪活動や「手作りマスクの型紙を配布」等が回答があった。

※その他、たくさんの「地域活動PR」をいただいております。今回、載せきれなかったものは「ホッとまMAP(市内全域)」に全て記載の上、掲載しております。ぜひ一度ご覧ください。

また、全町内会・老人クラブの「PR一口メモ」を用意しておりますのでいつでも気軽にお立ち寄りください!!」

『掲載場所 市民活動センター2階 地域福祉課事務所前』



設問8 今後、地域活動を進めていく中で社会福祉協議会に協力して欲しいことについて

今後、社協に協力して欲しいことに関しては、「おうちで楽しめーる便の継続」や「(コロナ収束後)ふれあいサロンの再開」、「老人参加のハイキング等、健康促進と交流の場を定期的を実施」、「軽い遊び程度の運動企画」、「レクリエーション・スポーツ用具等の貸し出し」、「防災活動について」、「他の地域活動を知りたい」、「(個人情報の問題もあるが)本当に生活に困っている人がわかれば」、「今後も参加者と触れ合い絆を深めて欲しい」等と回答あった。

この度は大変お忙しい中、アンケート調査に御協力いただきまして、誠にありがとうございました。

今回のアンケート調査結果にあるように、コロナウイルスの感染拡大後、外出自粛等により、大半の地域活動が中止あるいは縮小を確認することが出来る結果となりました。

その一方で、今後コロナウイルス感染拡大が収束し、徐々に地域活動が再開していく中で、「何をどのように、どのタイミング」で行えば良いか、わからない等との声も多く頂いております。

この結果をふまえ、これからも地域の皆様と一緒に今できることから取り組み少しずつではありますが地域活動の再開を目指していければと思っておりますので、今後とも、よろしくお願いいたします。

令和2年6月15日



アンケートのご協力ありがとうございました！